



18号

# ハートフル

～きこえる いっしょに考えよう～

三木市子どもいじめ防止センター  
令和元年7月発行

## あるおばあちゃんの話

孫のY子は、優しい子でした。小さい時に足の悪い子ねこを拾ってきて、今も育てています。Y子の母親は、女手一つでY子を育てています。母親は看護師をしているので夜勤の時や長い休みの時は、神戸の家から、おばあちゃんの家に来ていました。学校に行きだすと、本やパソコンなど目で見える知識はほとんど入ってくるようですが、先生や友達の話が理解しづらく、学力もなかなか身につかず運動も得意でなかったようです。



ある時、学級でドッジボールをしていた時に「おまえがいたから負けたんだ」と、みんなから何度も責められました。また、授業中にAさんが、発表の苦手なY子に「Y子さんも意見を言いよ」と強く言ってきました。AさんにY子を励ます気持ちがあったかもしれませんが、Y子は、とても恥ずかしい気持ちになり、心に痛みを感じていました。

心配したY子の母親は、担任の先生に手紙を書きました。先生は話し合いを持ったり、注意深く見守ったりしてくださったのですが、先生や大人のいない所でいじめられるようになり、中学校に進学しても一日中誰とも話をしないで過ごした日もたくさんあったようです。高校は少し遠い所に通いました。悲しい思いをしてきた人や、人の心の痛みがわかる優しい人に出会い、お友達もでき、学力も徐々に取り戻してきました。

そして、今年の春Y子は、京都にある先生の資格が取れる大学に入学しました。「いじめを許さない先生になるんだ」と毎日張り切って、何時間もかけて京都の大学に通っています。

おばあちゃんは、いじめに負けなかったY子の頑張りに感動しています。おばあちゃん自身もこの世の中からいじめを無くしたいと心から願っています。おばあちゃんは、人前で話をするのは苦手ですが、いじめをなくすために何かしたいと思っています。もし、呼んでもらえるなら、どこへでも出かけて行き、いじめを無くす話をしたいと思っています。そうすることで、がんばって大学に通っているY子を応援することができると思っています。

メールでの相談も  
できます



三木市子どもいじめ防止センター

電話: 0794-82-8110



相談日 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

ijime\_boshicenter@city.miki.lg.jp

三木市福井 1933-12 三木市立教育センター3階

祝日・12/28～1/4はお休みです



ほうむしょう だい ぜんこくちゅうがくせいじんけんさくぶん にゅうしょうさく  
法務省：第30回全国中学生人権作文コンテスト入賞作

# いじめをなくすために、今

とくしまけん みよししりつちゅうがっこう ねん  
徳島県・三好市立中学校 3年

浦谷 毅（うらたに たける）

しゅさい ほうむしょう ぜんこくじんけんようごいいんれんごうかい  
主催 法務省・全国人権擁護委員連合会

ぼく しょうがっこうろくねんせい ふくおかけん す ぼく たいけん  
僕は小学校六年生まで福岡県に住んでいました。そこで、僕が体験した  
ことです。五年生のころ、僕の友だちのA君  
が、同級生のK君の靴を隠したり、からかっ  
たりしていることがよくありました。最初は  
僕もあまり気にしていませんでしたが、K君  
のことを「なんだかかわいそう」と思うよう  
になりました。

ある日僕は勇気を出して先生に「K君がい  
じめにあっています」と報告しました。初め  
先生は、「じゃれあっているだけだろう」と、  
「いじめ」とは思ってくれませんでした。で  
もその後「いじめ」と分かり、A君は、先生に  
注意され、その日一日は反省した様子で過  
していました。しかし、次の日学校に行くと、  
いじめは前以上にエスカレートしていて、蹴



ったりたたいたりするようになりました。しかも、「死ね」「うざい」「消え  
ろ」などの言葉が飛び交うようになり、そんな日が続きました。

それは六年生になっても続きました。僕はそのいじめを止めることがで  
きず、毎日、見て見ぬ振りをしていました。今思うと、自分がとても恥  
かしいです。本当の友だちなら止めるべきなのに。それだけではなく、い  
じめられているK君に声一つかけることができずにいました。心の中では  
A君に「やめろよ」と言おうと思っていたけど、なぜか、勇気が出ません  
でした。次にいじめられるのが自分になるのが怖くて、言えなかったのです。

そんな日々が続く中、僕の気持ちを大きく変える出来事がありました。父  
の死です。その時のことは、今でも忘れることができません。聞いたとき  
には頭の中が真っ白になりました。最初は信じる事ができませんでした。  
一週間も二週間も学校に行けず、ただ、ぼーっと過ごしていました。いろ  
んなことを考え、徐々に、「死」というものの悲しさ、つらさ、「死」とい

う意味の重さがわかってきました。そして、時間はかかりましたが、「命は一瞬にして消え、二度と戻ってこないものだ。だから命を大切に、今を大切にしなければならぬ」と深く受け止める事ができるようになりました。そして、周りの子たちは、僕のような経験がないから、「死ね」とか軽々しく言えるのだろうと思い、この気持ちを伝えなくてはならないと考えました。僕が強くならなくてはと思いました。

こんな気持ちになったとき、僕には時間がありませんでした。母の実家がある徳島への引っ越しが一週間後に決まっていたのです。落ち込んでいる暇はないと思い、学校に行った僕はA君に言いました。「いじめなんかやめろよ。いじめたって喜ぶ人はいないし、悲しむ人がいるだけだろ。自分だってほんとは嫌だろ。『死ね』とか『消えろ』とか言葉の重さを知らないのに言うなよ」と言いました。父親の突然の死、そのあと僕が考えた事も伝えました。

友だちは黙って聞いてくれました。僕の言葉にうなずいて、そのあと、K君のところへ行き、「ごめん、言葉の重さも知らずに言って、本当にごめん。ぜったいに死ねなんてことは言わない。そして、いじめは絶対にしない。ほんとうにごめん」とあやまりました。K君はとても優しい笑顔で「いいよ」と一言言いました。僕もK君に言いました。「今まで助けてあげられなくてごめん」K君は笑顔で、「ありがとう」と言ってくれました。今まで自分の中でもややもやしていた気持ちが、スーッと晴れました。

今も時々耳にする暴言。冗談半分で言っているのかもしれませんが。しかし、いつ、いじめにつながるかわかりません。他人を傷つけることで自分のストレスを晴らそうとしているのでしょうか。関係ないふりをしようとする自分がいます。楽な考え方をする自分がいます。そんな時、亡くなった父の顔や、K君の優しい笑顔を思い出します。あの時の自分のように強い気持ちを持とう。「やめろよ」と一言言う。すると、また気持ちがスーッとしてきました。

父の分も頑張って生き抜こうと決めた僕にとって、正しいことを素直に認め、悪い事を否定できる強い意志を持つことが目標です。そして何よりも、命を大切に、今を大切にしていきたいと思っています。

この作文は、動画でドラマ化されています。「私たちの声 3人の物語 いじめをなくすために 今」と言う題名です。法務省のホームページから見ることができます。

# なが なつやす 長い夏休み！ ネットいじめに気をつけよう

## みんなへ

いま、スマホを使っている小中学生が大変増えました。小中学生は原則、学校へスマホを持っていくことができませんね。夏休みになると自由にスマホを使う時間が増えるかもしれません。うっかりすると、スマホやゲーム中毒になるかもしれません。ラインのグループトークなどに入ると、「グループの会話にいつも入っていないと仲間はずれにされる」という理由でスマホを手放せない子どももいるそうです。ちょっとした言葉の行き違いなどがきっかけで仲間はずれやいじめが始まる場合があります。嫌な言葉をかかれたら、その場で消える言葉より、何度も見てしまう文字の方が心を痛める場合もあります。送り手は相手がどう思うかよく考える必要がありますね。

## おうちの方へ

できれば、ラインやゲームは最低限にしてほしいと思う親は多いはずですが、「ゲームばかりやって！」とか「時間を決めて！」とか言ってばかりではなかなか解決しません。日頃からの親子のコミュニケーションが大切です。普段から子どもの様子をよく観察し、不安な様子が見られたら声をかけ、悩みを聞いてあげられるような親子関係を築くようにしましょう。

心配な事があったら、子どもいじめ防止センターにお電話をください。一緒に考えましょう。



## 子どもいじめ防止センターをご存じですか？



中央図書館の西側  
この建物の3階に  
あります

- (所在地) 三木市立教育センター3階
- (開設日・時間)  
月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
- (電話番号) 82-8110
- (主な役割)

- いじめ防止のための啓発や教育
- いじめのない地域づくり
- いじめの相談・対応
- 教育委員会や学校との連携